

## 第2回 仙台市総合計画審議会都市の魅力部会議事概要

この議事概要は、事務局の責任においてとりまとめた速報であり、事後に修正する可能性があります。なお、正式な議事録については、別途ホームページに掲載しますので、そちらをご覧ください。

|       |  |
|-------|--|
| 日 時   | 平成22年8月18日（水） 18：30～20：30  |
| 会 場   | 仙台市役所議会棟 2階 第7委員会室   |
| 出席委員  | 宮原育子部会長、間庭洋部会長代行、石川建治委員、江成敬次郎委員、大草芳江委員、大滝精一委員、岡本あき子委員、小野田泰明委員、菅井邦明委員、鈴木勇治委員、高野秀策委員、西大立目祥子委員、増田聡委員〔13名〕   |
| 欠席委員  | 阿部初子委員、柳井雅也委員〔2名〕  |
| 仙 台 市 | 企画調整局長、企画調整局次長、総合政策部参事、総合計画課長、総合計画課主幹（2）   |
| 次 第   | 1 開会<br>2 議事<br>(1) 基本計画（中間案）について<br>(2) その他<br>3 閉会   |
| 配付資料  | 資料1 仙台市基本計画（中間案）第1章 総論・第2章 重点的な取り組み<br>資料2 仙台市基本計画（中間案）第3章 分野別計画<br>資料3 仙台市基本計画（中間案）第5章 総合計画の推進に向けて<br>資料4 基本構想・基本計画の全体構造<br>参考資料1 仙台市基本構想（中間案）<br>参考資料2 仙台市基本計画（中間案）第4章 区別計画<br>参考資料3 仙台市基本計画「仙台21プラン」の振り返り |

### 会議の概要

#### 議事

#### (1) 基本計画（中間案）について

- ・事務局から資料1～4、参考資料3を基に説明し、意見交換を行った。

##### <主な意見等>

- ・参考資料3の6ページで、H22の従業者数や都市圏人口が21プラン推計として出ているが、現実とフレームは違うと思うので、より直近のデータについて現実的な数値が出せないか。従業者数等については国勢調査以外に具体的なデータの分析がかなり難しいということもあり、現段階では推計値を出すのは難しい。今年度は国勢調査年なので、年度が終わればそういったものをお出しできると思う。
- ・参考資料3の16ページの公共交通利用者数について、地下鉄の乗車人員がここ10年で減っているというのは、経済の問題と考えてよいか。

地下鉄の利用客については、交通局の分析でも、経済的な問題が要因の一つとして挙げられている。

- ・資料 1、5 ページからの「ミュージアム都市」について定義がまとまりきれておらず、補足が必要だと思う。本文の記述では市民が学ぶことが目的のようにになっているが、学ぶだけではなく、まちづくりなどに力を発揮してもらうことが重要なのではないか。

ご指摘のとおり、最終的には学ぶことにより、市民が個性を発揮してより良いまちづくりができることが重要だと考えるが、それを実現するための環境づくりが行政の大事な役割と思っており、そういう意味で「学び」を少し強調した記述となっている。書きぶりについては今後検討したい。

- ・資料 1、13 ページに「商都」ということで商店街の位置づけがあるが、これを新たな成長産業というくくりの中で位置づけるのは正しいのか。大きく発展させていくというより、支援をしながらきちんと維持をしていき、にぎわいの核になってもらうというものではないか。

商店街については、休日等の歩行者が減少しているというデータがあることも事実であり、経済局と各商店街等を中心に、中心商店街の魅力を向上させるための取り組みを示す、商店街プランというものの策定を進めているところである。

- ・次の10年を考えたときに、環境エネルギー技術の革新といったものについて、市としてどのように受け止めているか。世の中で起きている重要な変革について触れられていないが、もっと積極的に発信が必要ではないか。

庁内でも同様に、記載が足りないのではないかと議論がある。13ページの新たな成長産業として環境産業のニーズもあるのではないかという意見もあり、記述について検討していきたい。

- ・緑と水のネットワークの形成という考え方は素晴らしいが、具体的な記述は緑のネットワークだけ、水のネットワークだけ、となっており、緑と水がどのようにリンクするのか、環境とのリンクをどう考えるのかというところがわからない。本当の意味での仙台南らしさを示す部分でもあり、表に出していく必要があると思う。

- ・都市の魅力分野の 1、2 というのは「ミュージアム都市」づくりとすごくクロスしている。きめ細かい地域政策は単に暮らしとか福祉の領域だけのことなく、小さな単位の地域に魅力的な景観が作られていくということでも必要なものだと思う。「風格ある景観形成」というのは、必要ではあるが漠然としている印象があり、住む人の日々の暮らしの中から、住む人が地域の資産を発見していった、それによって都市の魅力をかたちづくっていくということが重要。「ミュージアム都市」づくりを上位に展開するのであれば、単に重点政策としてぽんと出すのではなく、横断的に様々な分野に展開していった、今度の総合計画の目玉になるようなところまで高めていくべきと感じた。都市のブランドをビジターに対して出すだけではなく、自分たちが日常生活の中で、質的な都市の魅力を実感できるという視点で、「ミュージアム都市」づくりというものを工夫してもらうと良いと思う。

「ミュージアム都市」づくりについては、まだまだ熟度は低く、今後さらに精査していく必要はあると思う。中間案の段階でどこまで修正できるかは、時間の関係もあり、部会長と相談しながら検討していきたい。

- ・都心の強化・拡充という項目について、現実には民間の再開発などにゆだねられ、行政が

どのようにかかわっているか見えない。バス停などの集約についてはどう考えるのか。昨年実験を行ったが、その後の施策が進んでいないように感じられ、東北の玄関口にふさわしい結節機能というものがもう少し打ち出されないと、言葉で終わってしまうような心配がある。

「駅周辺の機能強化」という中に、バスターミナルの再編や東西線開業に伴う駅前広場のあり方の検討などについても考慮しているが、記述については市民意見も含めて最終案までに検討していきたい。

- ・今どこの都市に行っても、駅前と同じような風景に見えるが、仙台らしさがわかるような玄関口にどう変えていくかが重要だと思う。
- ・公共交通の項目で、鉄道が中心となりバスが補完するという表現でいいのか。公共交通機関としてバスも重要なのではないか。
- ・交通体系については、市民の側から見ると、鉄道は中心になっておらず、自動車を中心になっているのではないか。鉄道を中心にするという希望を持つのはいいが、自動車が中心になっている中で、例えばラッシュ時はクルマを都心部に入れないといった発想が必要なのではないか。

実態として、自動車を中心になっていることはそのとおりと考える。ただ、本市としては高齢化社会をにらんだときに、あるいは低炭素社会を目指す上でも、クルマから公共交通への転換という方向に切り替えていきたいということを示すため、このような記述としている。

- ・鉄道が中心で、バスがその補完をしていくという方向性については賛成する。ただ、具体的な施策でドラスティックな方向に切り替えることについては、コンセンサスを得るのは大変だと思う。表現として誤解を生まないようにする必要はあると思う。
- ・郊外からの住み替えを誘導するという表現については、郊外に住むことを否定しているようにとられかねない。市としては郊外をどのようにしたいと考えているのか。  
この表現については、どの程度市の方向として示していくのが適切なのか、非常に難しい課題である。現在、住生活基本計画というものを策定しており、郊外をどのようにしていくべきか議論しているが、なかなかこれというような方向性が出せていない。基本計画にもどの程度書いていくべきか悩んでいるところ。
- ・郊外団地にはそれなりのコミュニティができており、それを生かしていくという方向性もあると思う。
- ・産業、経済分野にミュージアムの発想が欲しい。工場、倉庫も商店街や横丁もみんなミュージアムになりうる。ゼロからつくるのではなく、今あるものを活用することについて、産業でこそやるべきものだと思う。
- ・「市民力」と産業、経済、文化をリンクすべき。もっとコミュニティビジネスをつくっていくといった言葉を入れてもいい。市民力を活用して産業の芽をつくっていくと言う事が重要。
- ・新しい研究開発、技術を生み出した仙台ということをもう少し表に出してもいいと思う。仙台オリジナルの技術として八木アンテナなど多くのものがあるし、それらの技術が10年くらいの単位で出てきていることを考えると、この10年で期待できるものもあるのでは。

- ・何のために都市の魅力づくりに力を入れるんだろうかということにひっかかりがある。定住が見込めないから交流人口を増やすということではいいのか。仙台に住みたいと思ってもらうことが都市の魅力づくりの目的ではないか。定住人口を増やすということは、税収の関係もあり、市として展望を持つ必要があると思う。
- ・21プラン策定時に112万人と予想した人口が、103万人にしかならなかった大きな原因は、仙台に目玉となるきちんとした産業がないからではないか。例えば仙台駅東口にIT産業を集積させるといった話があったと思うが、現実にはなっていない。まちづくりの目標としてこの点についてはどう考えるか。
- ・例えば、荒井地区で農地をつぶして区画整理事業が行われているが、少子高齢化で宅地はもう要らないのではないか。施策の方向として区画整理事業の促進とあるが、宅地を作るだけの事業を進めることは市として正しいのか。仙台の魅力ある何かがそこにはないと思えないと思う。
- ・市政だよりに掲載された意見募集について、意見を出した市民の方から、意見が計画にどのように反映されたのかを聞かれており、その状況を教えて欲しい。  
具体的な意見の反映についての公表はまだであり、多少前後するとは思いますが、中間案に合わせて示していきたい。
- ・第5章の「総合計画の推進に向けて」で、市民協働について、具体的な記述が委員会の設置に短絡化されているが、ワークショップや直接参加など、もっと様々な手法を多層的に組み合わせて、市民協働の方法を作り上げていくという議論をしていたはず。手法そのものを確定したものとするのではなく、実際の行動をフィードバックしながら、ダイナミックにやり方を変えていき、より適した手法で市民協働を進めていくといった記述とすべき。その方向で記述をしていきたい。
- ・「透明性」の話も書き込むべき。市民の意見に逐次対応していくというのは、一見よさそうだが現場が消耗してしまう。単なる御用聞きにならないためには、「透明性」を確保した上で、ある程度行政にまかせて欲しいというスタンスが重要。  
透明性という部分については、第5章の推進部分において、推進の仕組みという部分での体系化を考えている。
- ・例えば、都市の魅力の分野は六つあるが、これは絶対不可侵なのか。経済分野などは横串に刺さってくるので、この分野分けに必ずしもあてはまらない。行政の枠組みなので変更できないということか。  
構成を現段階で見直すということは、担当部局との調整もあり、時間的に難しい。最終案でどこまで組みかえられるかは検討したい。横串に刺さるような内容については、分野別というよりは、重点政策の中で横断的にまとめていきたい。
- ・分野別計画のどこから、市民力とかミュージアム都市構想を読み込んだらいいのかというのが、当然出る疑問であり、それを説明しようとすれば、構造にも踏み込まざるを得ない。それをどこまで許容できるのかということを率直に教えていただいた方が、議論が現実的になると思う。
- ・重点政策の(1)に「ミュージアム都市」という独自の政策が来て、(2)～(4)についてはどこの都市でもあるような政策となっているということは、(1)が市の政策のメ

インとなると考えられる。そうだとすると、もっとあらゆる施策からミュージアム都市を目指すような姿勢があっても良いと思う。ただし、「ミュージアム都市」という言葉がいいのかどうかについてはまだ検討する必要があると思う。

- ・都市像から重点政策、分野別計画に至る関係性が明確でない。分野別計画においても都市像との関係性ははっきりするべき。
- ・重点政策の(2)「持続可能な都市づくり」は政策というよりも、基本的なフレームなので、ここに置くのは収まりが悪いという感じがする。
- ・「ミュージアム」という言葉から受ける印象であるが、既にあるものを利用するといった受け身的な印象を受ける。市民力により新しい価値を作るところを、もっと能動的に書かないと、わくわくしない。
- ・前回の部会では重点プロジェクトの中でも3番目にあった、「ミュージアム都市」をトップに持ってきた根拠の説明があってもいいと思う。また、基本構想で前面に出していた、市民力という言葉が重点政策に全く触れられていないが、もう少しその言葉を使ってもいいのではないかと思う。

「ミュージアム都市」の説明についてはまだ不十分な部分があるが、市民一人ひとりの学びということを都市づくりにつなげるための施策として構築したいという思いがあり、基本構想の市民力の考えを受けたものとして記述している。また、都市像でも、一番上に「学びの都」を掲げているところであり、それと連動させたいと考え、「ミュージアム都市」をトップに持ってきている。

- ・基本構想の2にある「仙台の未来を創る市民力」が今回の計画のキーワードになるので、その内容や発揮する場、その育て方を丁寧に説明していく必要があると思う。

## (2) その他

- ・事務局から参考資料1、2について説明した。